Ⅱ　調　査　結　果　の　概　要

【　概　況　】

１　身長および体重の推移

身長および体重は、男子、女子ともに昭和30年度以降緩やかに増加してきましたが、平成に入ってからは横ばいで推移しています。

２　身長および体重の全国平均値との比較

身長は、男子は５歳～８歳、10歳、11歳および15歳～17歳で全国平均値を上回りました。女子は５歳、７歳、12歳～14歳、16歳および17歳で全国平均値を上回りました。

体重は、男子は、５歳、７歳、９歳および11歳～15歳で全国平均値を下回りました。女子は、５歳～17歳のすべての年齢で全国平均値を下回りました。

３　発育状態の世代間比較

男子はほとんどの年齢で身長、体重ともに親世代を上回っていますが、女子は身長の５歳、６歳、15歳、17歳、また、体重の５歳および13歳以上で親世代を下回っています。

体格差が最も大きい年齢は、男子は身長が12歳、体重は10歳で、いずれも親世代を上回っています。女子は身長、体重ともに15歳で、いずれも親世代を下回っています。

４　年間発育量の世代間比較

平成30年度調査で17歳に該当する「平成12年度生まれの者」（子世代）と、30年前の「昭和45年度生まれの者」（親世代）について、６歳から17歳までの各年齢間における身長、体重の年間発育量を比較すると、身長、体重ともに、最大の年間発育量を示す時期は、男子では、子世代、親世代ともに12歳～13歳となっています。また、女子では、子世代が９歳～10歳、親世代が10歳～11歳となっており、子世代が親世代より早くなっています。

５　肥満傾向児の出現率

肥満傾向児の出現率は、男子、女子ともにほとんどの年齢で全国平均値を下回っています。

６　主な疾病・異常の被患率等

小学校における「裸眼視力1.0未満」の者の割合は、全国平均値を下回っています。

また、「眼の疾病・異常」、「耳疾患」、「鼻・副鼻腔疾患」、「蛋白検出」および「ぜん息」の者の割合は、全ての学校種別で全国平均値を下回っていますが、「心臓の疾病・異常」の者の割合は、全ての学校種別で全国平均値を上回っています。

「むし歯の被患率」の推移をみると、平成23年度から全ての学校種別で減少傾向にありましたが、今年度は幼稚園で増加となりました。